

2022年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2021年11月5日

自然と、あなたと、ともに未来へ。



クアンチ風力(144.0 MW、ベトナムクアンチ省内)

注意事項

本資料は、株式会社レノバ(以下「弊社」といいます。)及び弊社グループの企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、弊社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料の記載金額は、原則、連結数値を使用、百万円未満は四捨五入としているため、各欄の合計値と合致しない場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先
株式会社レノバ IR室
電話 : 03-3516-6263
メール: ir@renovainc.com
IRサイト: <https://www.renovainc.com/ir>

2022年3月期第2四半期連結決算(IFRS)及び直近のハイライト

1

2021年8月、唐津バイオマス(49.9 MW^{*1})は
融資関連契約を締結、着工

2

2021年8月、キアンガン水力(17.4 MW^{*2})は
融資関連契約を締結、着工

3

2021年10月、クアンチ風力(144.0 MW^{*2})
及び軽米尊坊ソーラー(40.8 MW)が運転開始

4

2021年9月、いすみ市沖が
洋上風力事業に係る「有望な区域^{*3}」に選定

*1 地熱及びバイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記

*2 許認可ベースでの設備容量

*3 海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域指定ガイドラインに記載されている有望な区域の選定条件に合致していると認められる区域



I. 2022年3月期第2四半期決算及び主な事業進捗

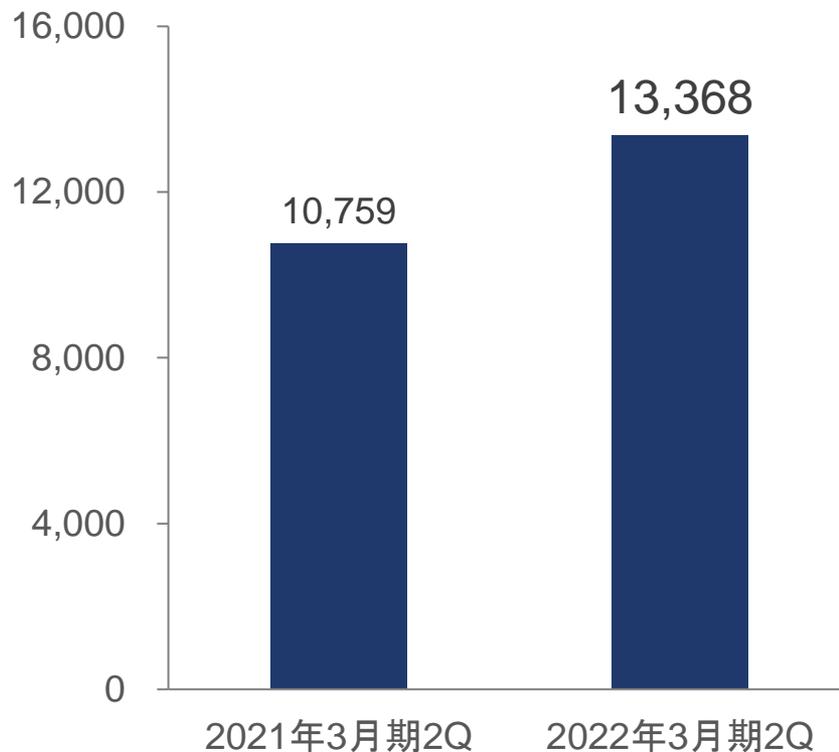
苅田バイオマス(75.0 MW、福岡県京都郡苅田町)

連結売上収益及び連結EBITDA^{*1}の推移(IFRS)

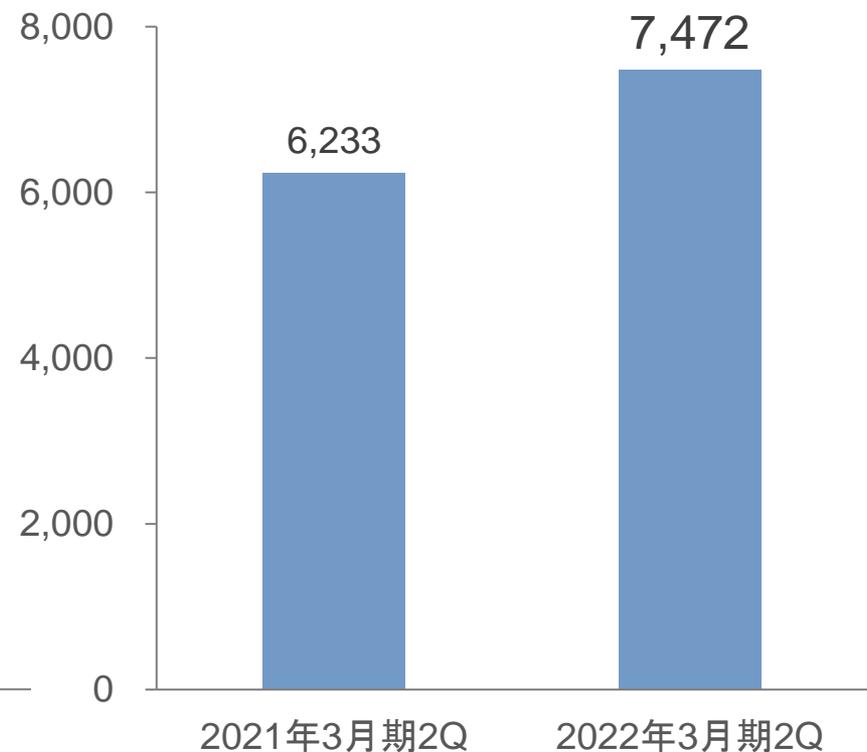
(単位: 百万円)

- 売上収益及びEBITDAは、苅田バイオマスの連結化に伴い前年同期から増収増益、計画通りの進捗

連結売上収益(実績)



連結EBITDA^{*1}(実績)



^{*1} EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

連結業績ハイライト(IFRS)

(単位: 百万円)

- 親会社の所有者に帰属する四半期利益は、売上収益及びEBITDAの成長に加え、企業結合に伴う再測定による利益の計上等の影響に伴い、前年同期比で増益

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2022年3月期 (通期計画)	通期進捗率
売上収益	10,759	13,368	30,000	44.6%
EBITDA*1	6,233	7,472	12,600	59.3%
EBITDA マージン	57.9%	55.9%	42.0%	-
営業利益	3,233	4,016	4,700	85.4%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	1,302	7,237	5,100	141.9%
EPS(円)*2	17.01	92.90	65.31	-
LTM ROE*3	-	83.2%	36.2%	-
運転中発電所数 (括弧は持分法適用の数)	12(0)	13 (0)	14 (1)	-
設備容量(MW)*4	333.3	408.3	593.1	-

*1 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

*2 EPSは潜在株式調整を考慮しない数値 *3 ROE における親会社の所有者に帰属する持分は、直近12ヶ月間の期首・期末の単純平均値を使用

*4 設備容量は当社持分比率を考慮しないグロス値で表示

唐津バイオマス(49.9 MW、佐賀県唐津市)^{*1}の概要

2021年11月現在

- これまで培ってきたバイオマスの開発に関する知見を元に、レノバが開発を主導
- 2021年8月に、最終投資意思決定を行い、建設開始

唐津バイオマス(佐賀県唐津市)

設備容量 ^{*2}	49.9 MW
主燃料	輸入木質ペレット (PKS併用)
FIT 単価	24円 / kWh
運転開始	2024年12月 (予定)
想定売上高 ^{*3}	約80億円 / 年
総事業費 ^{*4}	約380億円
LTC	90.0%
出資会社	レノバ:35.0% ^{*5} 東邦ガス:34.0% JA三井リース:16.0% イノセント:15.0%



7件目となる大型バイオマス事業。
これまでの経験と知見を活かし、開発を主導

^{*1} EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記 ^{*2} バイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記 ^{*3} 現状の計画であり、変動する可能性がある

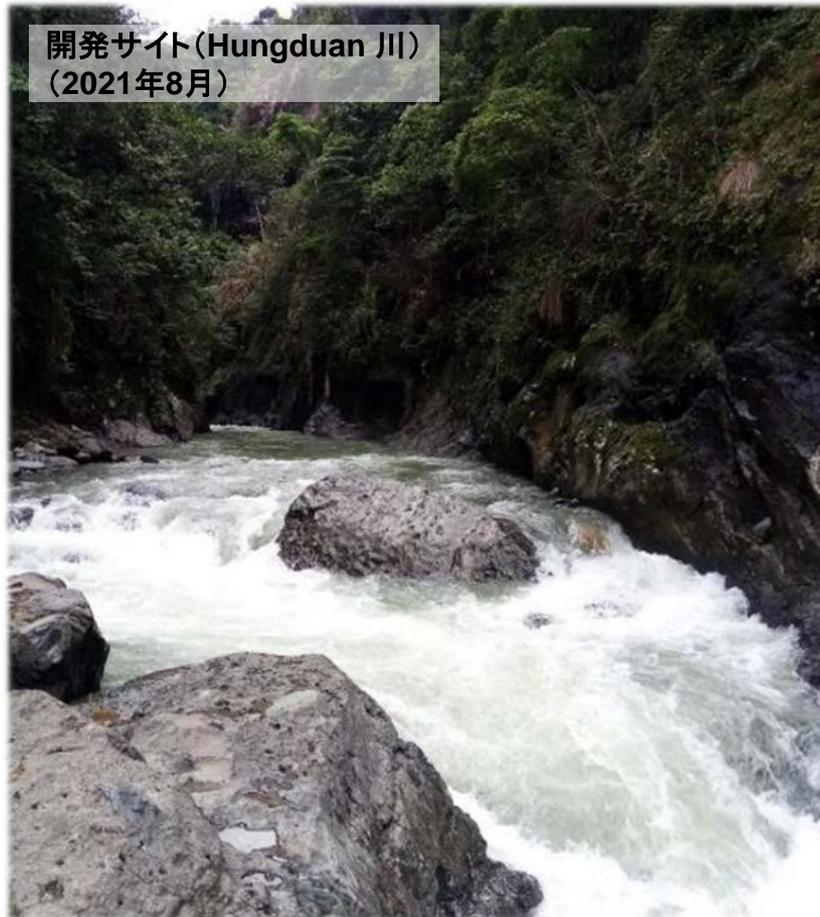
^{*4} 発電関連設備、建屋、土地、土木造成、ファイナンス関連費用(リザーブ等含む)、開業関連費用など、運転開始までにかかる全ての支出を含んだ金額

^{*5} 発電所の完成日以降に、一部の出資会社が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 16.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合は、弊社の出資比率は 51.0%

キアンガン水力(17.4 MW、フィリピン)^{*1}の概要

2021年11月現在

- レノバが開発に参画した初の水力発電事業であり、海外事業としては、2事業目
- 2021年8月、最終投資意思決定を行い建設開始



開発サイト(Hungduan 川)
(2021年8月)

事業概要

設備容量	17.4 MW (許認可ベース)
FIT価格 ^{*2 3 4}	5.87 PHP/kWh (約¥11.7 /kWh)
出資会社	レノバ: 40.0% Alternergy Renewables Corporation: 30.0% Santa Clara International Corporation: 30.0%

**初の水力発電事業であり、
海外事業としては、2事業目。
土木工事はすでに順調に進捗**

^{*1} EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

^{*2} 小水力発電に関する FIT 対象枠の残存期間中に運転開始した場合の想定 FIT 単価

^{*3} フィリピンペソ=2円で換算した参考値 ^{*4} 現状の計画であり、変動する可能性がある

クアンチ風力(ベトナム、144.0 MW)の運転開始

2021年11月現在

- 2020年5月に、レノバが参画した初の海外事業
- 2021年10月末までに各事業区画が順次運転開始

事業概要



発電サイトの眺望①
(2021年9月)

設備容量	144.0 MW
FIT単価 ^{*1*2*3}	8.5 cents (US\$) / kWh (約9.3 円)
想定 売上収益 ^{*3}	約45 MM (US\$) / 年 (約50億円 / 年)
出資比率	PCC1 ^{*4} 他: 60.0% レノバ: 40.0%



発電サイトの眺望②
(2021年10月)

2021年10月に運転開始

*1 ベトナムのFITスキームに則り売電

*2 \$1=110円で換算した参考値 *3 現状の計画であり、変動する可能性がある

*4 Power Construction Joint Stock Company No.1

軽米尊坊ソーラー(岩手県九戸郡軽米町、40.8 MW)の運転開始

2021年11月現在

- 2021年10月、運転開始。今期は6ヶ月の連結業績寄与
- 運転開始後、コールオプションを行使し出資持分を追加取得。出資持分は55.0%

発電サイトの眺望
(2021年10月)



事業概要

設備容量*1	40.8 MW
FIT単価	36円 / kWh
想定売上収益*2	約17億円 / 年
想定EBITDA マージン*2	約80%
総事業費*3	約170億円
LTC	90.0%
出資比率	レノバ: 55.0% 第一生命保険: 45.0%

2021年10月に運転開始

*1 モジュールベースの設備容量表記

*3 現状の計画であり、変動する可能性がある

*2 発電関連設備、土地、土木造成、ファイナンス関連費用(リザーブ等含む)、開業関連費用など、運転開始までにかかる全ての支出を含んだ金額



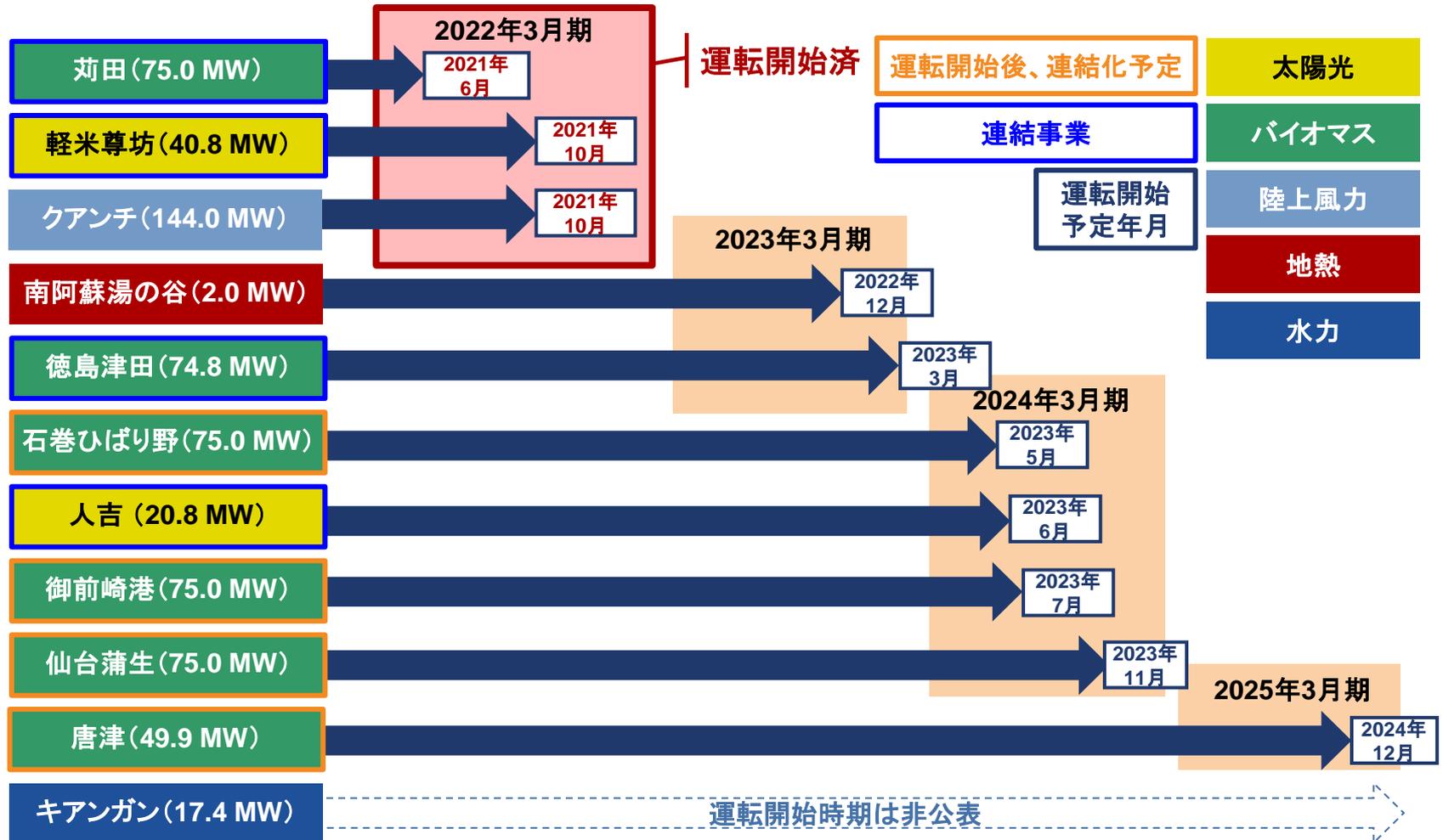
Ⅱ. 建設中及び開発中事業の状況

南阿蘇湯の谷地熱(2.0 MW、熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

建設中事業の運転開始スケジュール^{*1*2}

2021年11月現在

- 2021年10月に、軽米尊坊ソーラー及びクアンチ風力が運転開始
- 来年度以降に運転開始予定の全8事業^{*2}の建設は予定通りに進捗



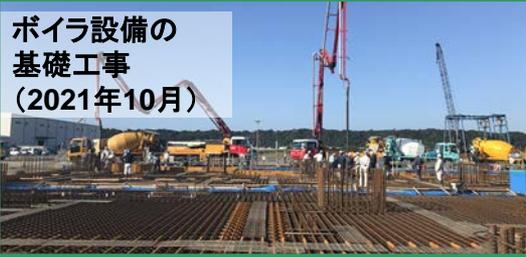
^{*1} 建設中の事業の運転開始の年月は、現状における予定であり、変更、遅延となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

^{*2} 2021年8月に着工したキアンガン水力(17.4 MW)の運転開始は非公表

建設中事業の進捗^{*1}

2021年11月現在

■ バイオマス5事業は、タービン建屋の建設及び基礎工事等が順調に進捗

<p>徳島津田バイオマス (74.8 MW、徳島県徳島市)</p> <p>ボイラ設備の据付 (2021年9月)</p>  <p>2023年3月運転開始(予定)^{*2}</p>	<p>石巻ひばり野バイオマス (75.0 MW、宮城県石巻市)</p> <p>ボイラ設備の据付 (2021年10月)</p>  <p>2023年5月運転開始(予定)^{*2}</p>	<p>御前崎港バイオマス (75.0 MW、静岡県御前崎市他)</p> <p>ボイラ設備の 基礎工事 (2021年10月)</p>  <p>2023年7月運転開始(予定)^{*2}</p>
<p>仙台蒲生バイオマス (75.0 MW、宮城県仙台市)</p> <p>燃料タンク躯体工事 (2021年10月)</p>  <p>2023年11月運転開始(予定)^{*2}</p>	<p>唐津バイオマス (49.9 MW、佐賀県唐津市)</p> <p>造成工事 (2021年10月)</p>  <p>2024年12月運転開始(予定)^{*2}</p>	

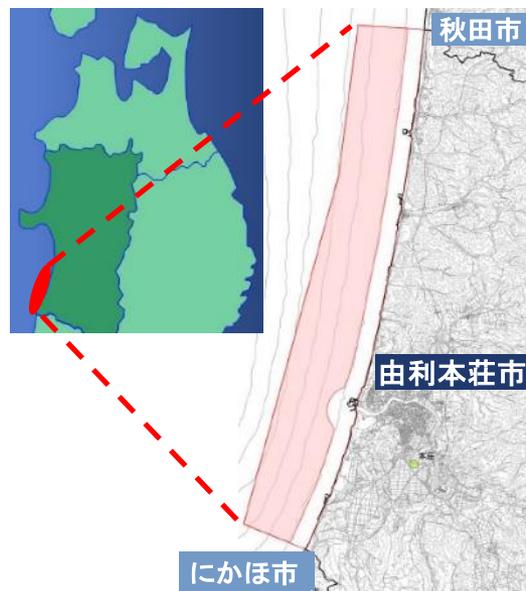
^{*1} EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

^{*2} 現状の計画値であり、変動する可能性がある

開発中事業：秋田県由利本荘市沖洋上風力事業(約 [700] MW^{*1})

2021年11月4日時点

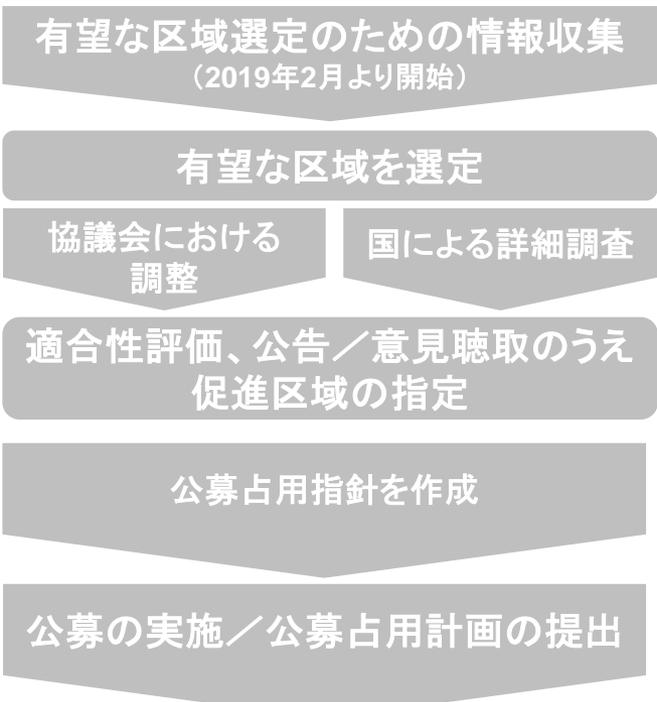
- レノバが開発をリードする秋田県由利本荘市沖における大規模洋上風力事業
- 現在公募プロセス中であり、2021年5月中に、公募占用計画を提出



設備容量	約 [700] MW ^{*1}
出資者	<ul style="list-style-type: none"> ■ レノバ(リード事業) ■ コスモエコパワー ■ JR東日本エネルギー開発 ■ 東北電力

促進区域の
指定
プロセス

公募
プロセス



**2段階の審査及び評価を経て
事業者選定** } 5ヶ月~^{*2}

^{*1} 公募の実施を踏まえ、由利本荘洋上風力事業のスケジュールは未定であり、規模は暫定値

^{*2} 海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域に係る公募占用指針について

(https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/yojo_furyoku/pdf/006_01_00.pdf)より

千葉県いすみ市沖洋上風力事業 ([350- 450] MW^{*1})

2021年11月1日現在

- レノバがリードで開発する千葉県いすみ市沖の大規模洋上風力事業
- 2021年9月に、いすみ市沖は有望な区域に指定

事業エリアの概要^{*2}



事業概要^{*1 *2}

候補海域	太東・大原沖 (離岸距離約3km以上)
設備容量 ^{*1}	[350- 450] MW
基礎形式	着床式
風車規模 ^{*2}	1機あたりの出力 [9.5- 15] MW

**レノバがリードで開発する2事業目の洋上風力事業。
地域との共存共栄の理念のもとに、事業実現を目指し開発中**

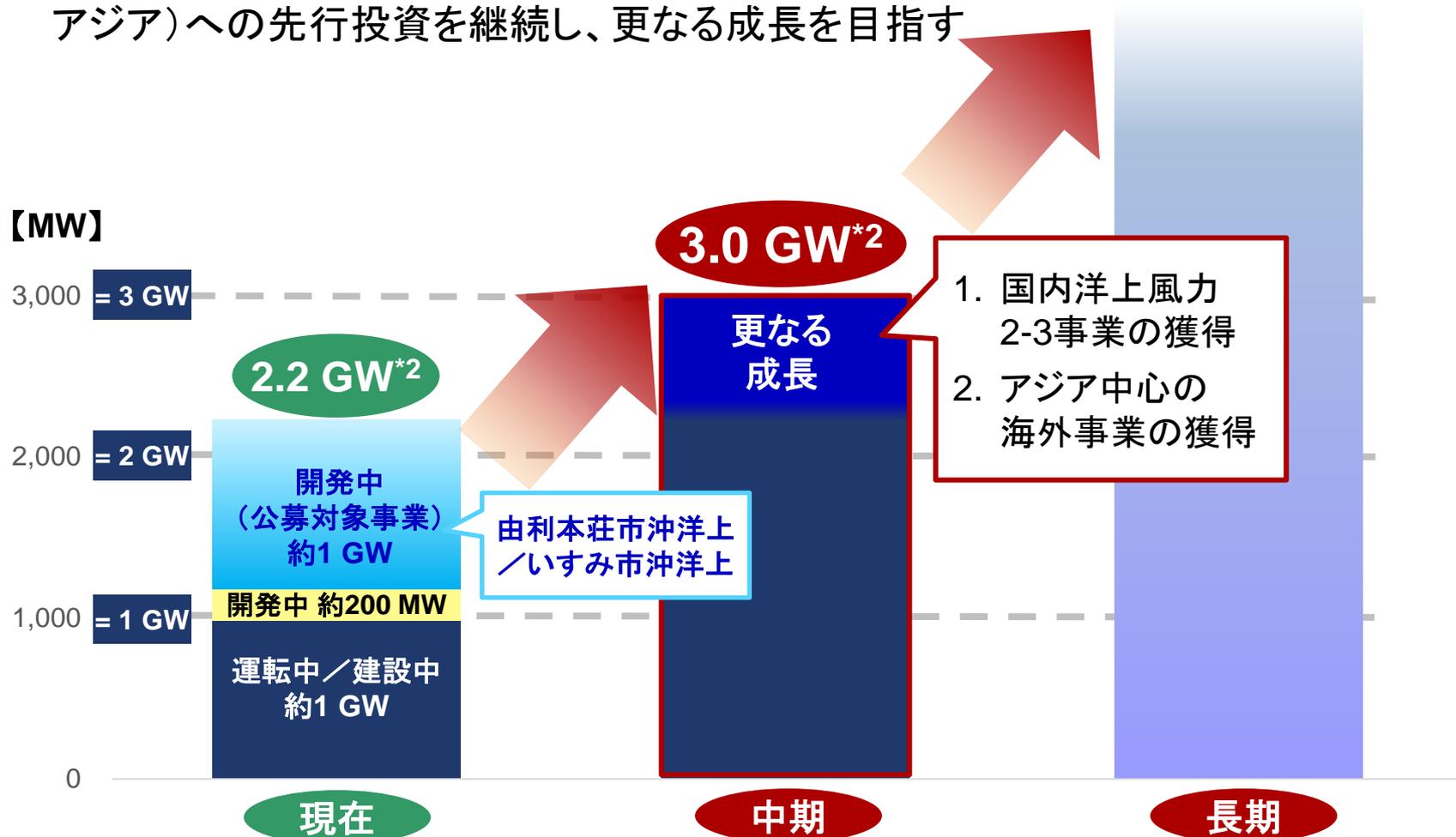
^{*1} いすみ市沖洋上風力事業のスケジュールは未定であり、規模は暫定値

^{*2} 現状の計画であり、変動する可能性があります

今後の成長目標の規模

2021年11月現在

- 運転中、建設中、開発中事業を含めて 2.2 GWの事業を手掛ける
- 中長期の成長のために、成長分野である国内洋上風力事業や海外事業(特にアジア)への先行投資を継続し、更なる成長を目指す



*1 運転中及び建設中事業の合計設備容量。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

*2 1GW(ギガワット)=1,000 MW。公募対象事業を含む。

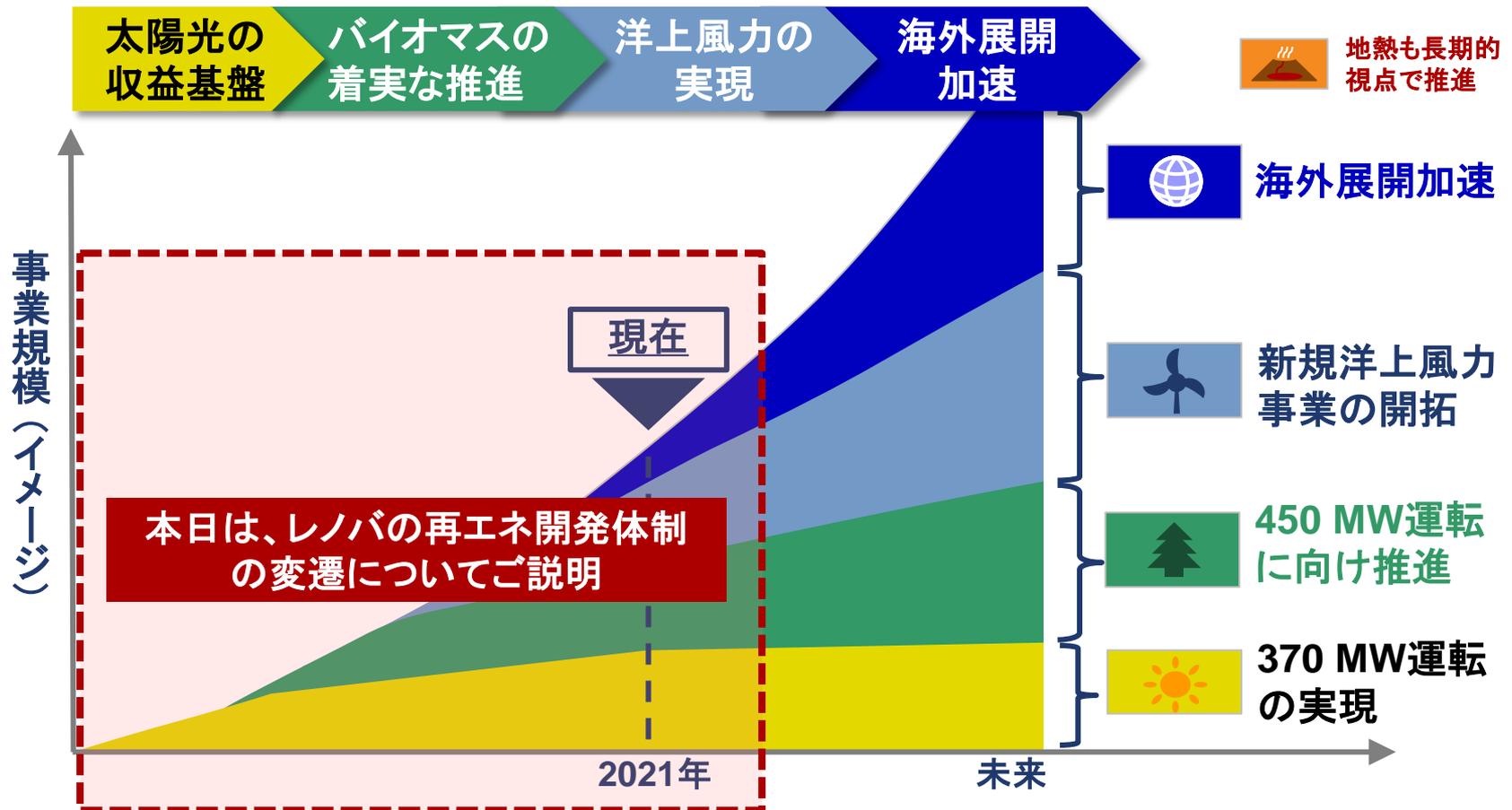
Ⅲ. レノバの組織戦略と競合優位性



レノバの成長イメージ

洋上風力の開発を推進しつつ、海外展開を加速

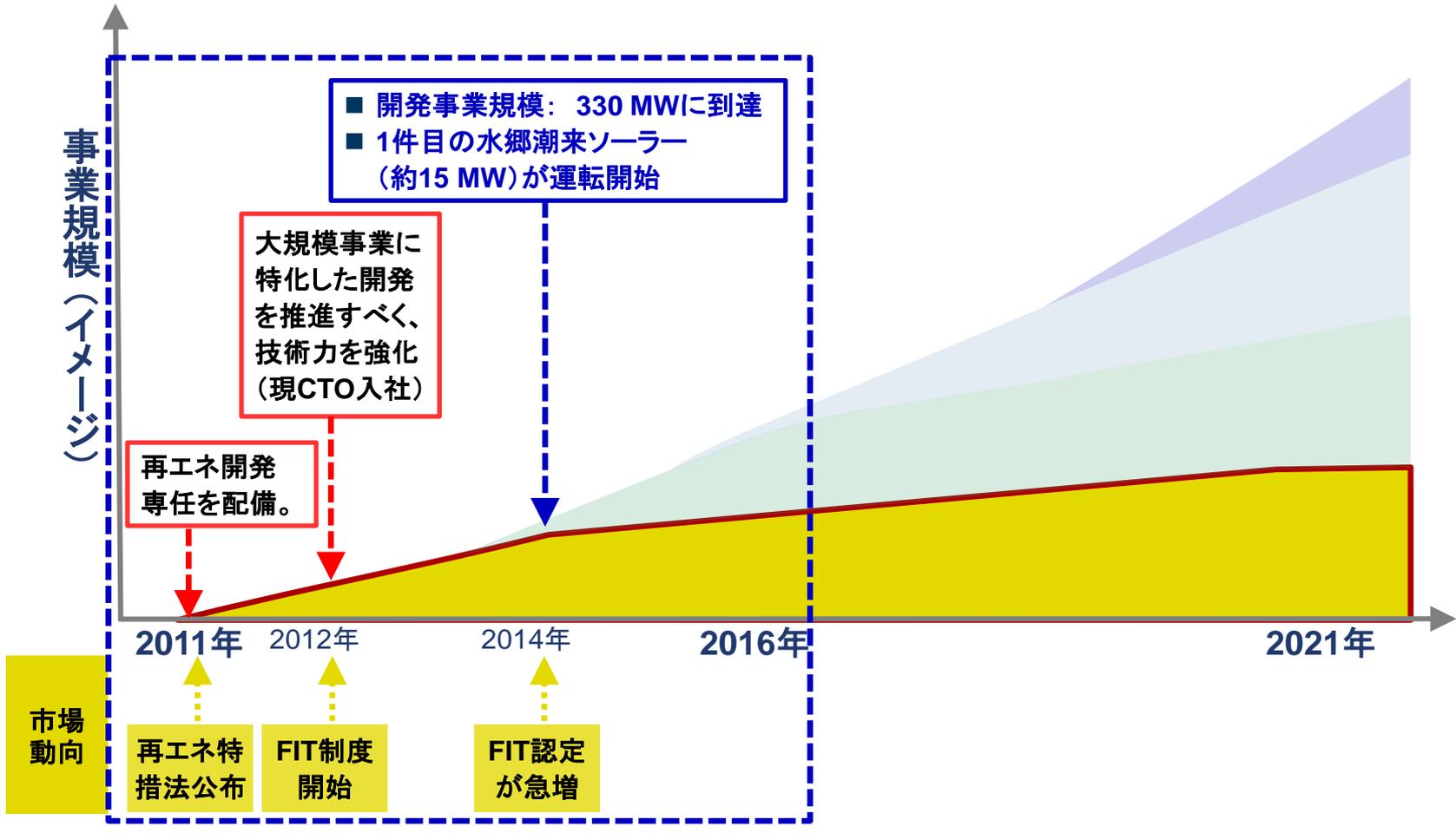
- 洋上風力及び海外事業を成長領域として投資を加速
- 長期的な成長のために、新規事業の開発を一層強化していく



国内再エネ市場の黎明期、事業の垂直立ち上げ

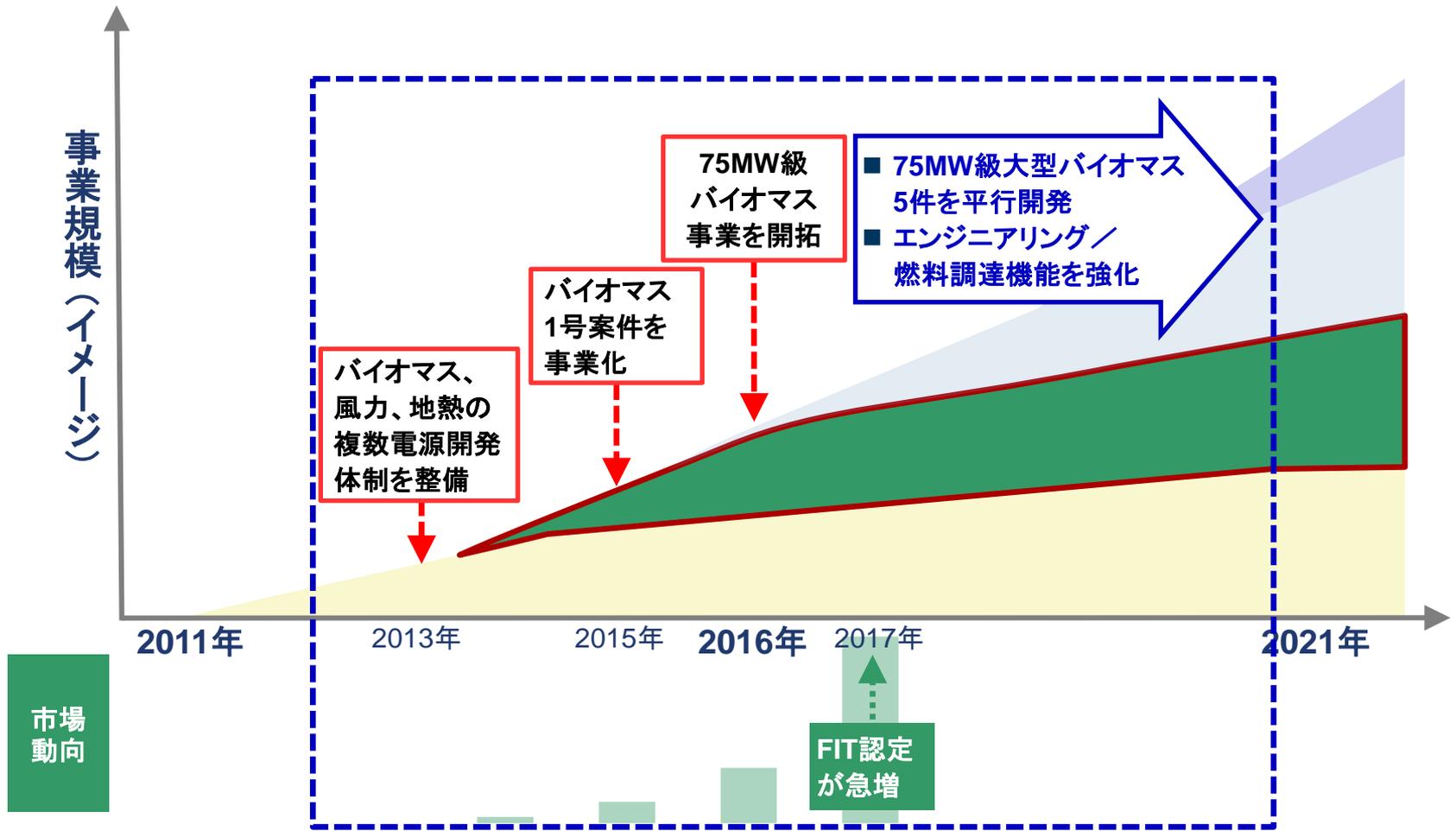
太陽光事業の立ち上げ／拡大

- 国内再エネ市場の黎明期において、先んじて大型事業の開発体制を構築／垂直立ち上げを実現



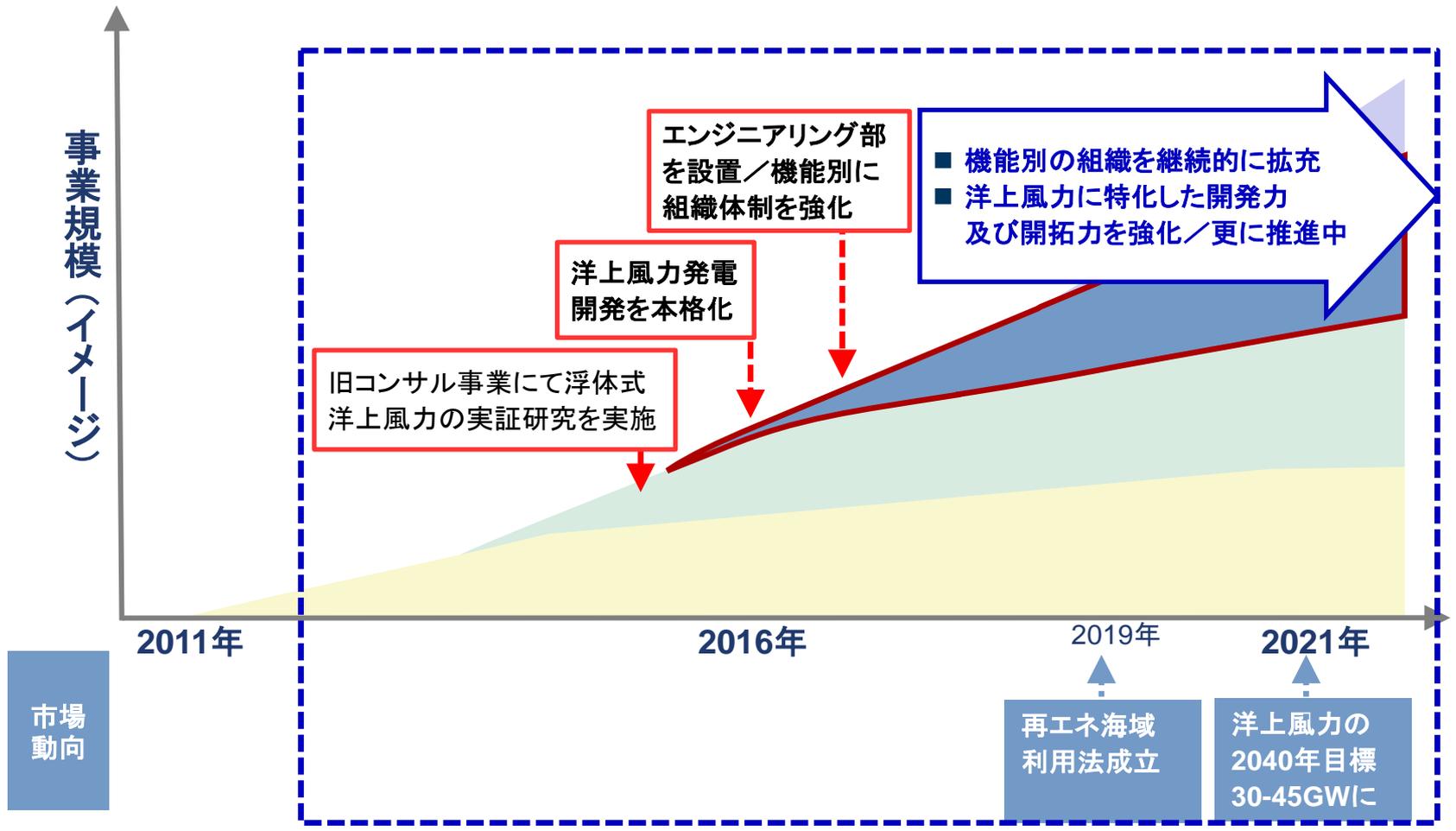
バイオマスによる成長／開発パイプラインの拡大

- 複数電源を開発する体制を構築
- 成長ポテンシャルの高いバイオマス市場に早期に取り組み、高い成長を実現



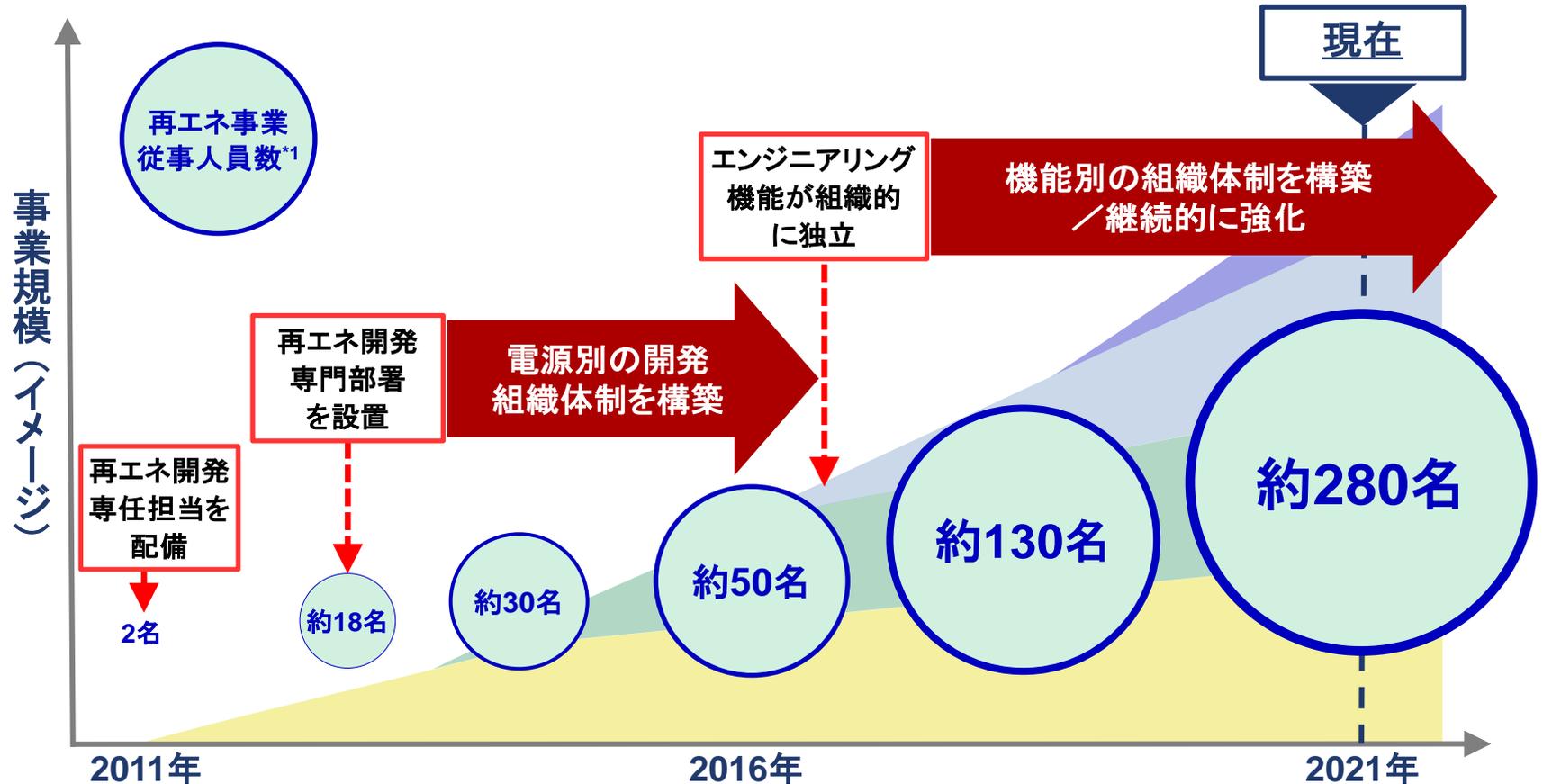
洋上風力による更なる成長フェーズ

- グローバルの潮流を見越し、早期に洋上風力事業の開発に着手
- 先行的に人材とノウハウを拡充し、市場拡大期において強みを確立



開発体制の変遷概要

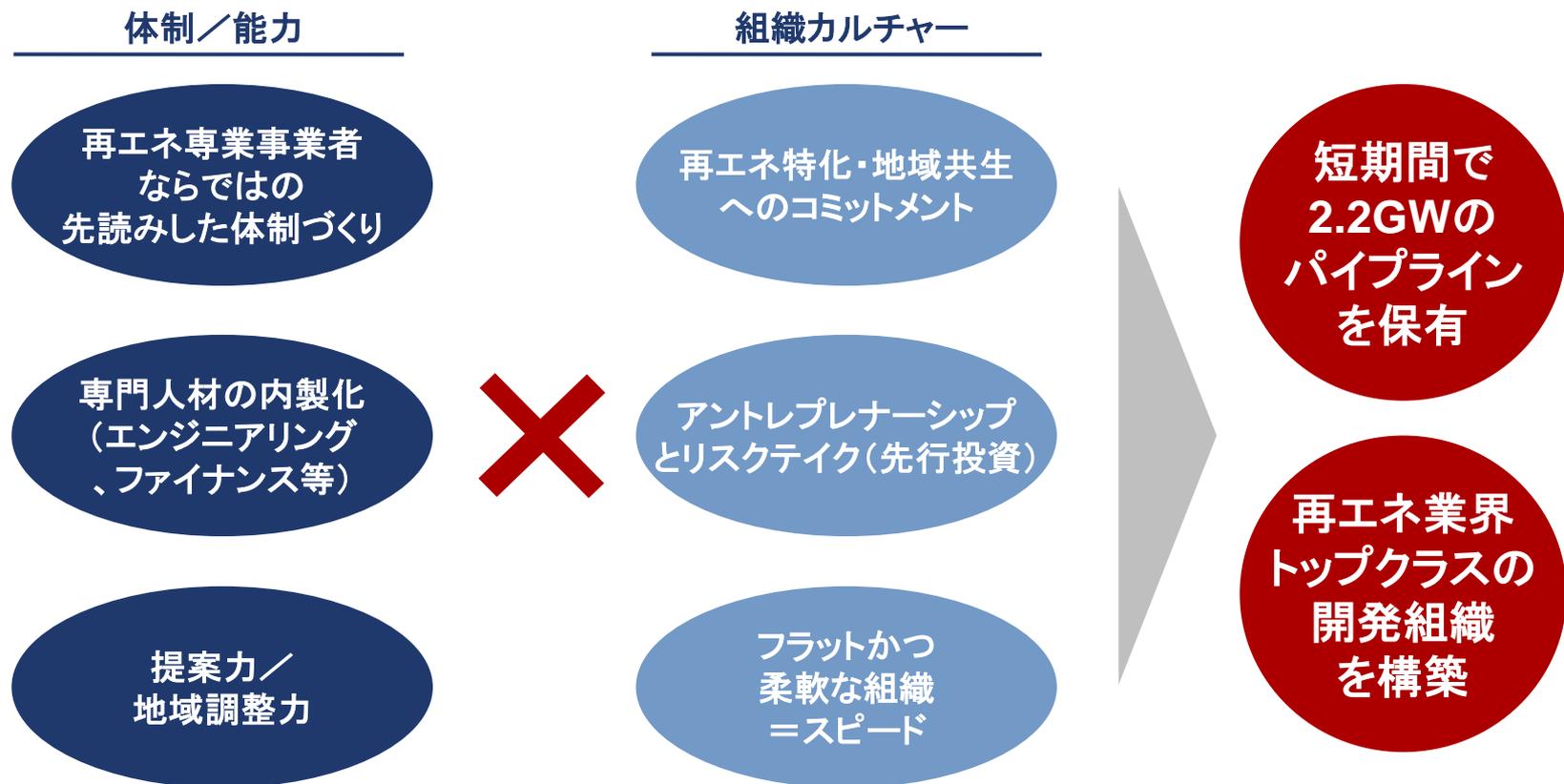
- 市場の成長を先読みし、人員含む先行投資(リスクテイク)を行い、機動的に組織編成して早期に強みを確立できることが、レノバの成長力の源泉



*1 2016年以前の人員数は、全社人員数からプラスチックリサイクル事業及び環境コンサルティング事業従事者の人員数を差し引いた人数で表示

レノバの特徴／強みのまとめ

- 市場の「半歩先」を先読みして体制を整備することで開発力を高め、スピーディかつ適切なリスクテイクを行うことができるカルチャーにより実績を積み上げ
- 業界トップクラスのパイプラインと開発組織を持つに至る



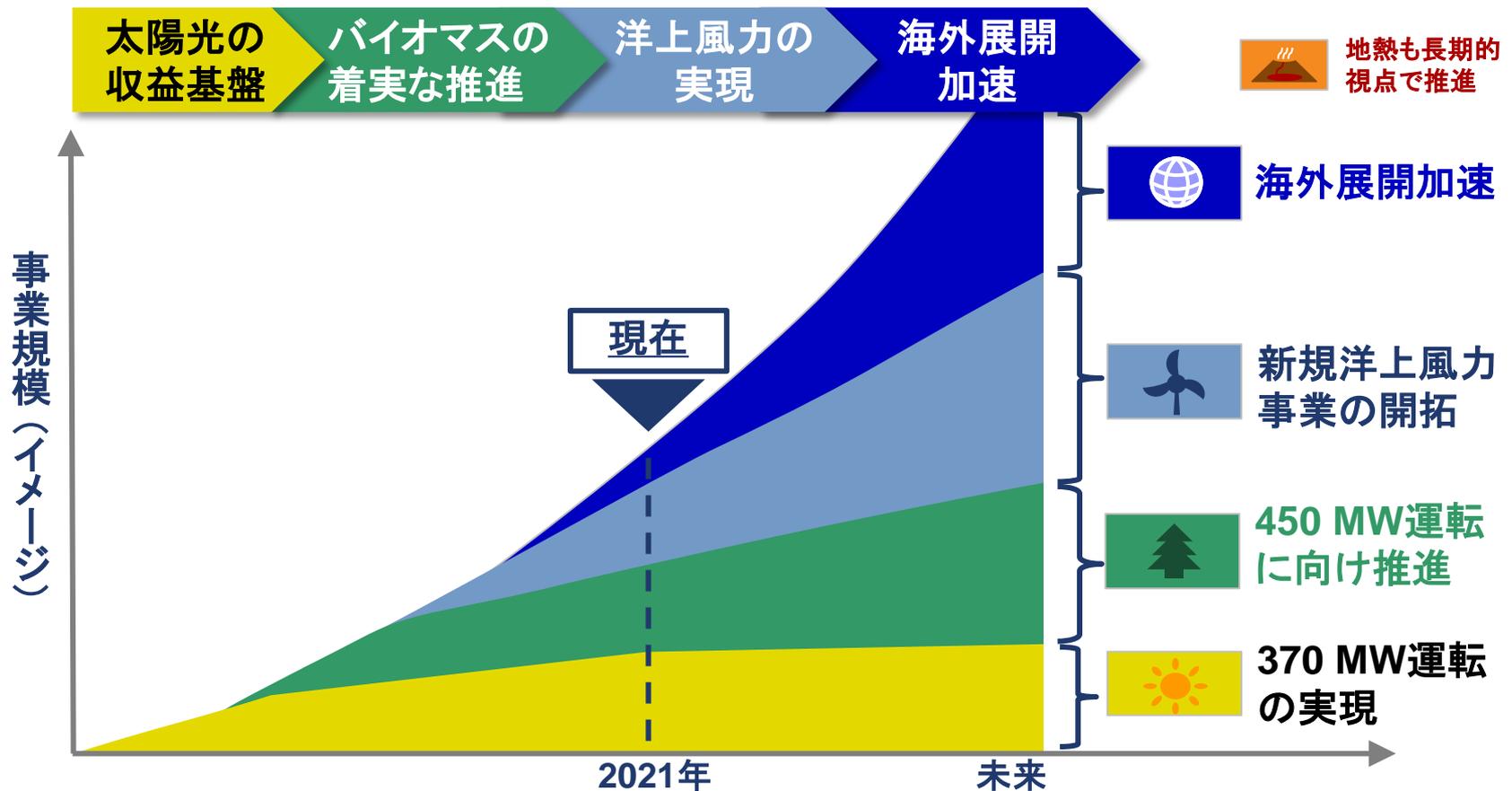
レノバの競合優位性

- 再エネ事業の専門プレイヤーならではの能力、カルチャー、コミットメントによって、各種プレイヤーとの比較においても優位性を持つ

比較対象	レノバの優位性
国内電力／ユーティリティ／エネルギー事業者	<ul style="list-style-type: none"> ✔ アンブレプレナーシップとリスクテイク ✔ 柔軟かつフラットな組織構造による意思決定スピード ✔ 約30件の大型事業の開発を通じて蓄積された、層の厚い再エネ専門人材と知見
商社／金融プレイヤー	<ul style="list-style-type: none"> ✔ 約50名のインハウスのエンジニアによるコスト低減力 ✔ 再エネ事業に100%コミットした専門性の高い開発陣による、熟度の高い事業計画
海外再エネ事業者	<ul style="list-style-type: none"> ✔ 地域に対する高いコミットメントと、約40名の開発推進チームによる高い地域調整力 ✔ 国内の制度／事業環境を深く理解したエンジニアによる実現性の高い設計／計画

日本とアジアのリーディングカンパニーへ

■ 洋上風力及び海外事業を成長領域として投資を加速



ミッション / 経営理念

グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し
重要な社会的課題を解決する

ビジョン / 目指すべき企業の姿

日本とアジアにおけるエネルギー変革の
リーディング・カンパニーとなること

自然と、あなたと、ともに未来へ。

REN  VA